

2009年6月

藤の花が落ち中将姫の墓を敷き詰めるころ、去年に引き続き当麻寺中之坊にて行われる髪供養で尺八を演奏することになった。古典本曲の1つである「打破」という曲を儀式の初めに演奏する予定である。打破とは、人生には激しく動くときもあれば静かに流れるときもある、まさに波のようであるということを表示している曲である。この演奏の後お経が唱えられ、参加者が髪の毛を少し切り、列を作って中将姫のお墓にお供えする。

中将姫は藤原豊成の娘とされる。中将姫は15歳にしながら音楽と詩に長けていた。それを妬んだ継母に暗殺されそうになった。中将姫は船で中将川(高田川)を渡り、広陵にある安部に上陸した。その後築山古墳のある築山村を経て当麻寺に入り尼となったとされる。その当時女性が寺に入ることは許されていなかったのだが、90日間祈り続けた後、一夜にして蓮糸で當麻曼荼羅を織り上げたとされる。中将姫伝説は彼女の献身さと強さを伝えている。私にも彼女のような意志の強さがあれば。。。

お供えの後、泉川秀文と私が組むユニット“黒船”が古典本曲の「鹿の遠音」を編曲した「鹿鳴寺」で儀式を締めくくる。その後本堂に場所を移し、私たちがリリースしたCD“黒船”からの曲披露する。

中将姫が示した反対に立ち向かう信念は、今の時代でも学ぶことが多い。彼女の伝説は747年の話であるが、同じようなドラマは今日でも繰り返されている。

日本に住んで歴史から様々なことが学べることを知った。歴史的・文化的史跡が豊富にあり、それぞれに逸話が残されている。各史跡に物語があり、歴史を示しているように、尺八の曲には物語があり、歴史が語られている。そして吹く度にあなたの一面が刻まれる。

日本誕生の地である奈良の文化には特に歴史的な物語が多く、今日にも通じる人生の教訓が詰められている。皆が歴史から学び得ることができれば同じ間違いを繰り返さなくてすむ。そこに存在すら気付かなかった自分を見つけるかもしれない。